

令和7年度 信学会栗田こども園 「園の自己評価」

より良い園運営を行うため、園の自己評価の実施が法律で規定されました。これは国からの評価項目の指標に基づき園で取りまとめた自己評価です。

1. 園の教育目標

豊かな体験や遊び、さまざまな人との関わりを通して、自分で考え行動する子どもを育てる

2. 本年度の重点目標

子どもたちの豊かな体験や遊びを大切に環境作りを考える

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	A
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	A
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	B
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	B
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

1. 保護者アンケートの評価

○全ての先生が名前や性格を把握してくれている。(17)

- ・子どもの気持ちやペースに寄り添った対応(登園渋りやトイトレなど)。
- ・担任に限らず、園全体で子どもを見守る小規模ならではの安心感。

○主体性を育むのびのびとした環境(11)

- ・自分のやりたいことを選択できる自由遊びの充実。
- ・自分で考える力、チャレンジ精神、他者を思いやる心の成長。
- ・否定せず見守る姿勢が、子どもの自信に繋がっている。

○ドキュメンテーションによる様子の可視化(10)

- ・写真付きの報告で、園での活動が手に取るようにわかる。
- ・家庭での会話のきっかけになり、安心して預けられる。

○豊かな実体験と外部活動(9)

- ・虫探し、土や花に触れる自然体験。
 - ・散歩、美術館、季節ごとの製作活動など、家庭ではできない経験。
- 給食・おやつのおいしさ(8)
- ・毎日おかわりをするほど給食を楽しみにしている。
 - ・食事の時間が子どもの登園の楽しみになっている。

2. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

- ・今年度も、職員が積極的に園内外の研修に参加するように努め、保育の質の向上を図った。
- ・人事異動で新人職員や転勤職員がいたり、年度途中で担任が交代したりと落ち着かない時期もあったが、クラスの子どもだけでなく園の子どもたちを全員で保育していこうと職員間で連携を図ることができた。
- ・来年度は、子どもたちの「探求」に重点をおいた保育をし、学びを深めていきたい。